



土木紀行

三重県北牟婁郡紀北町から熊野市

青年技師が設計した大正時代の 煉瓦隧道群

この東紀州の「煉瓦隧道群」は、主に三重県技師の岩井藤太郎によって設計されたものだ。岩井は旧制三高（現在の京都大学）工学部卒業後、明治33年（1900）、九州の門司市で技師となり、その後三重県に赴いた。隧道を設計したのは三十代の頃で、現在、隧道内の銘板に、石工とともにその名が刻まれているのを確認することができる。

どうせ
道瀬隧道の出入口を観察すれば、アーチに沿って五角形の石でリズミカルに縁取られているのを発見する。他の隧道も同じようなデザインが施され、青年技師だった彼の心意気が感じられる。



熊野古道と国道42号の成り立ち

この辺りは、リアス式海岸で入り組んでおり、地形が険しいため道路整備が遅れ、人々は長い間、数々の峠や難所を越えていかなければならなかった。

昭和34年，国道42号の改築工事が始まり，10年

語り部の話に耳を傾けて歩きたい 熊野古道

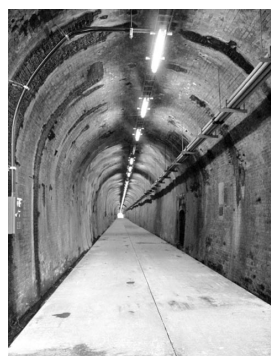
熊野古道・伊勢路には、幾つかの峠がある。観光案内所や道の駅に行けば、ルートマップや案内パンフレットを手に入れることができるので、いずれかの峠、古道を歩いてみることをおすすめしたい。

伊勢路の峠歩きの魅力は、今も多く残る苔むした石畳だろう。日本有数の多雨地帯を通る古道では、大雨にも崩れにくく歩きやすい道をつくるため、里人たちが紀州藩により、幾つもの時代を経て、補修が続けられてきた。場所や時代により石の敷き方も変化し、敷石は現地で調達したため、同じように見える石畳も、よくよく見れば峠によって異なるのも魅力の一つだ。

古道は、長い間使われなかったために土で埋まっていたところも多かった。それを発掘し、現在のように歩くことができるようになったのは、実は地元の人たちの功績が大きい。時代により少しずつ道筋も変わるため、新しく発見された古道も幾つかある。

道を知り尽くした地元の人たちが古道を案内する「熊野古道 語り部友の会」もあり、古道歩きには今や欠かせない存在となっている。語り部の人たちの話を聞きながら歩くことにより、何気ない風景や古道に佇む石仏も一層輝きを増してくる。

絶景の熊野古道や煉瓦隧道を巡れば、道が人類共有の財産だということを、心と体で感じることができる。



●道瀬隧道（道瀬歩道トンネル）



●熊野古道「熊谷道」



●長島隧道（江ノ浦トンネル旧道）



●熊野古道「松本峠」